

N P O 法人 マリンネットワーク

平成 28 年度 総会資料

日時 平成 28 年 5 月 21 日(土) 14:00～14:45

場所 T K P ガーデンシティ札幌駅前 5B 会議室

(北海道札幌市中央区北 2 条西 2-19 TKP 札幌ビル 5 階)

NPO法人 マリンネットワーク

平成 28 年度総会 次第

日時 平成 28 年 5 月 21 日（土）14:00～14:45

場所 T K P ガーデンシティ札幌駅前 5B 会議室

1 開 会

2 総会定足数報告

3 理事長挨拶

4 議長選出

5 総会

1) 総会開会宣言

2) 議事録署名者選任

3) 議案審議

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告について

第 2 号議案 平成 27 年度収支決算報告並びに監査報告について

第 3 号議案 平成 28 年度事業計画(案)について

第 4 号議案 平成 28 年度収支予算(案)について

4) 総会閉会宣言

6 その他

7 閉 会

第1号議案

平成27年度 事業報告

■NPO 法人マリネットワーく 平成27年度 総会・講演会・交流会

1. 総会

日時 平成27年5月15日 14:00~14:30

開催場所 TKPガーデンシティ札幌駅前

正会員数総数 122名（個人95，法人27）のうち，出席者72名（うち委任状出席者46）で，正会員数の1/2以上の出席をいただいたので，総会が成立しました。

古屋理事長が議長に選出され，4つの議案について審議をしたところ，原案通り異議なく可決されました。

2. 講演会

日時 平成27年5月15日 15:00~17:15

開催場所 TKPガーデンシティ札幌駅前

■講演

○濱口英代氏 「和田島の女性パワーで 浜(漁業地域)に!!」

総合司会 折谷久美子氏（NPO法人マリネットワーク理事，NPO法人スプリングボード・ユニティ21理事長）

濱口さんは和田島漁業協同組合参事として漁協女性

部の活動を支えています。女性部が取り組んでいる，「和田島ちりめん」のブランド化をはじめとする地域での活動，漁業・農業の連携により担い手育成や六次産業化等を推進する「こまつしま漁と農ゆめ会議」の紹介，「水産多面的機能発揮対策事業」を活用した魚食文化の伝承と古民家再生の取組の紹介をいただきました。

○高橋素子氏 「女性部の力で守ってきた「のれん」ーそのときを精一杯生きようー」

斜里町ウトロ地域の概要を説明いただいた後，昭和44年からスタートした婦人部食堂について紹介をいただきました。地元の食材の利用し，手をかけて作った食事を提供し，お客との一期一会を大切にしながら営業を続け，年間2400万円も売り上げるようになりました。

更に，利益を女性部の活動資金として活用することにより，地元での食育活動，JAとの異業種交流などを行っています。平成28年に完成する人工地盤へ食堂を移転して，6次産業化や観光客との交流活動にも力を入れていきたいというビジョンを持っています。

○山口加津子氏 「ホッキへの熱い思いが支える苫小牧漁協女性部の夢」

苫小牧はホッキ貝の水揚げ日本一です。そのホッキ貝を日本全国へ広く普及するために漁協の女性部長として，熱くパワフルな活動を続けています。

地域における食育活動や料理教室の実施などは，異業種の方たちと積極的に交流して活動を継続しています。山口さんの夢は，女性部の食堂を開くこと。



【講師略歴】

濱口英代氏（和田島漁業協同組合参事）

昭和 53 年から和田島漁業協同組合信用部に勤務、平成 19 年に参事に就任。平成 3 年から女性部の事務局担当となり、「こまつしま漁と農ゆめ会議」「和田島女性元気会」メンバーとして活動するとともに、国の補助事業の採択を受け、女性部の活動を運営面からサポートしている。

高橋泰子氏（J F ウトロ漁業協同組合女性部連絡協議会 顧問）

昭和 43 年にウトロ漁業協同組合に勤務、昭和 61 年から婦人部に加入し、昭和 62 年に婦人部若妻会を立ち上げる。平成 16 年から平成 27 年 1 月まで女性部長を務める。ウトロ漁協の女性部食堂（昭和 40 年に「婦人部売店」として開店したのがはじまり）の経営には力が入り、平成 27 年から女性部食堂の責任者に就任。

山口加津子氏（苫小牧漁業協同組合女性部長）

苫小牧生まれ。漁師の父親を手伝い、子供のときから漁業や魚の販売などに携わる。サラリーマンの夫が漁師になって以降、漁協女性部の部員としてホッキ貝をはじめ苫小牧の水産物普及のため活動が続け、平成 22 年から女性部長、平成 25 年から胆振地区女性連の会長を務める。夢は女性部で港に食堂を開くこと。

■トークセッション 16:00～17:00

「漁業地域における女性の活躍とその推進について」

スピーカー 濱口英代氏、高橋泰子氏、山口加津子氏

コーディネーター 遠藤 仁彦氏（NPO 法人マリネット
ワーク理事、国土交通省港湾局技術企画課技術監理室
長）



■NPO 法人マリネットワークの活動報告 17:00～17:15

古屋理事長が、平成 26 年度の活動報告をしました。

3. 交流会：17:30～19:00

会員、一般の方々あわせ、約 25 名の出席を頂きました。



■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(1) Sea 級グルメ 全国大会 (岩手県宮古市) 視察

2015 年 9 月 19～20 日に岩手県宮古市で開催された sea 級グルメ全国大会に遠藤理事が視察に訪れました。マリンネットワークの活動において、地域でお手伝いさせていただいている苫小牧、室蘭、紋別各港のみなとオアシスが出店していました。

苫小牧は漁協女性部もお手伝いしていて【ほっきカレー】を、室蘭では【ヤヤン昆布うどん】、紋別では【ホタテみそ焼きうどん】。それぞれの地域の特産水産物を使ったメニューです。どれも大好評、東北宮古の地で、大いに北海道の魅力を PR していました。



(2) 南かやべ前浜産養殖真コンブ 小分けオーナーの実施

「南かやべ前浜産養殖真コンブ」とそのオーナー制について

平成 25～26 年度に引き続き、NPO 法人マリンネットワークにおける地域の魅力的な水産物を多くの方に知って頂く活動の一環として、当 NPO 法人が養殖コンブオーナーとなり、一般家庭が購入しやすいように小分けして販売することとしました。これによって、もっと気軽にオーナー制のコンブを試していただき、南かやべ地区の養殖コンブの魅力をより幅広い方々に知って頂ければと考えています。

- 早煮コンブ 13 袋 (150g/袋)
- ダシコンブ 30 袋 (200g/袋)

限定で、1 袋各 1,000 円 (消費税および送料込) で販売。早煮コンブは 5 月中旬、ダシコンブは 10 月下旬にお送りしました。平成 27 年度も継続していけるような取組にしていきたいと思っています。



(3) 根室の歯舞（はぼまい）地域のコンブ、落石（おちいし）地域のコンブの販売

南かやべの「白口浜真コンブ」とは違う「ながコンブ」という種類のだし用と早煮コンブです。

歯舞早煮コンブ（80g／袋）600円，歯舞だしコンブ（80g／袋）500円，歯舞細切りコンブ（100g／袋）600円，霧娘（きりっこ）コンブ（200g／袋）1,000円（いずれも消費税および送料込）



■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

(1) 第8回マリンナレッジサークル（漁村勉強会）のご報告

開催日時：平成27年8月28日（金） 16:00～18:00

会場：一般社団法人寒地港湾技術研究センター 会議室

（札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル5階）

○講演（16:00～17:00）片石圭介氏（復興庁交付金班）

演題「東日本大震災のこれまでとこれから」 ～岩手県大船渡市での被災と震災復興の経験から～

【講演概要】

・大船渡市での経験（応急対応）

水産庁から大船渡市へ出向中に東日本大震災で被災した経験から、ライフラインの確保、応急対応のあり方、緊急避難場所としての漁船の活用などについて報告された。

・大船渡市での経験（復旧・復興）

大船渡市における1年間の復旧・復興に携わった経験から、地域特性に合わせた復旧・復興の方針の考え方、要望要求のとりまとめでの工夫などについて報告された。

・復興庁（現在の出向先）における仕事



○意見交換（17:00～17:20）

○積丹アクションのアイデア説明と意見交換（17:20～18:00）

NPO 法人マリンネットワークでは、水産資源状態が極めて厳しい北海道日本海沿岸において、持続可能な漁村地域のためのアイデアを検討するため、積丹地域をモデルとした「積丹アクション」のアイデア（素案）を作り、参加者と意見交換しました。

地元が取り組めるアイデア（案）を示し、主な意見は以下の通りです。

【主な意見】

- ・大型のホッケが少なくなっている。過大にとりすぎではないか。その結果、小さいホッケが出回っているので、ますます資源が少なくなると思われる。
- ・未利用魚はすり身など食べやすい加工品を作る
- ・地元に団体客が来ると、同じサイズのものを提供しなければならず、難しくなっている。
- ・ウニ丼が人気だが、ウニの量と価格設定が不明確。剥く量がクリティカルパス。
- ・ナマコは漁港水面を活用して取り組みやすい。他、岩のりなど
- ・NPO は行政ができないことをやっていく。頑張っている人を応援したい
- ・技術開発された磯やけ対策があまり使われていないと思う
- ・コンブを増やすとウニも増える
- ・資源の持続性のためには海に栄養を与える必要がある
- ・飲食店など、複数の魚から選べるスタイルがいいのではないか
- ・岩のりは寒い時期しか採れない。水試と協力して岩につきやすい岩のりを作っている

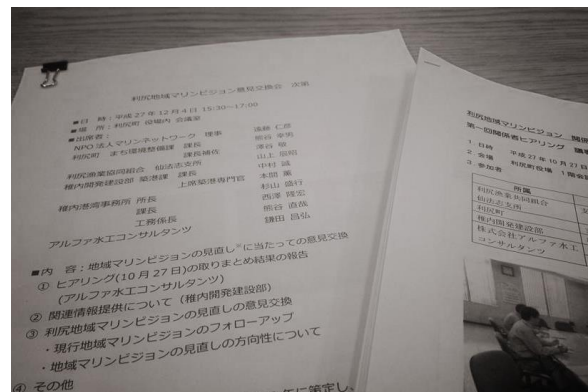
(2)利尻島仙法志地区の地域水産業ビジョンの見直しのための意見交換

マリンビジョンの見直しの委員会に、マリンネットワークからアドバイザーとして遠藤理事が参加しました。仙法志漁港は4種漁港として地域の拠点です。ホッケなどの漁船漁業、利尻昆布や利尻昆布を餌に育ったウニの産地でもあります。単価が高いナマコ漁業などを行っています。

冬期風浪が厳しい日本海側に位置し、秋、冬と出漁できない日が続くため、水揚げの拠点として整備されてきた漁港のストックを賢く利用して、港内でナマコ漁を行っています。

ナマコは港内全体ではなく、防波堤の近くのちょっと深いところにいるようです。利尻島は漁業が基幹産業ですので、漁業が持続的に営まれることが大事。年間通して安定して収入がある漁業、つくり育てる漁業を地域の知恵で実現していくことが大事です。

マリンネットワークは、外から見た知恵をアドバイスするなど、サポートしていきます。



■漁村地域の担い手支援に係る事業

(1) 第9回マリンナレッジサークル「積丹の漁業と日本海漁業振興を考える学習会」

NPO法人マリンネットワークでは、積丹地域の漁業振興について勉強会を実施してまいりました。一昨年8月に開催した第6回マリンナレッジサークルでは、積丹町、古平町、神恵内村の方を札幌にお招きして、積丹地域の現状についてご紹介いただきました。昨年8月に開催した第8回マリンナレッジサークルでは積丹地域の漁業振興について参加者とともに意見交換を行いました。そして平成28年2月13日に積丹町へ伺い、地元の学習会を開催しました。約60名の関係者にご参加をいただきました。(なお、積丹町では冬季営業している宿泊施設が少なく、宿の確保が難しかったため、広く会員の皆様に本件のご案内ができませんでした。お詫び申し上げます)

開催日時：平成28年2月13日(土) 15:00~17:30

共催：積丹地域マリンビジョン協議会・NPO法人マリンネットワーク

会場：積丹町総合文化センター



■プログラム：

- ・主催者挨拶 積丹町長 松井秀紀氏
- ・来賓挨拶 衆議院議員 中村裕之氏
- ・話題提供
 - ①「水協法・漁業法について」
後志総合振興局水産課長 加藤健司氏
 - ②「足元の資源を見直し、できることから始めよう」
積丹町環境生態系保全アドバイザー 河村博氏
 - ③「歯舞地区マリンビジョン協議会の取り組みについて」
歯舞漁業協同組合総務部長 斎藤義嗣氏
- ・意見交換 「積丹の漁業について考える」



主催者挨拶 松井町長

○話題提供

- ①「水協法・漁業法について」後志総合振興局水産課長 加藤健司氏
漁業権（定置、区画、共同）は一定の漁業を営む権利であり、漁協に対して与えられた免許として漁業法に規定されている。漁協は漁業権行使規則を定め、組合員は漁業の許可を与えられている。水協法は漁協の種類や事業の内容、運営機関、組合員の権利、組合員の義務を定めているものだと説明がありました。



来賓挨拶 中村裕之衆議院議員

- ②「足元の資源を見直し、できることから始めよう」積丹町環境生態系保全アドバイザー 河村博氏
これまでの調査研究から得られた様々な知見から、積丹にある資源を活用し、漁業が持続するためのアイデアをたくさんお話しいただきました。1) 積丹の特徴として、川から沿岸に供給される

栄養が非常に豊富なこと、それが海藻の生育に大きく関係していることを漁業者との共同調査で明らかになったこと。2) 積丹町のサケ増殖は放流方法を工夫することにより資源が増加する可能性があり、サケプロジェクトを立ち上げて取り組み始めたこと。3) サクラマスは森、川をつなぎ、生態系をつなぐことによって増やすことができる。4) 漁業者自ら行動すること、情報や知識を得てそれをアイデアに結び付けてほしいというお話でした。

④ 歯舞地区マリンビジョン協議会の取り組みについて」 歯舞漁業協同組合総務部長 斎藤義嗣氏

歯舞地区マリンビジョンでの取り組み～キャッチフレーズは最東端からのメッセージ～ の紹介を通して、次の6つのポイントに留意しながら活動を進めたと紹介されました。

- 1) 自然消滅的な流れに至らないよう強く意識する
- 2) 地域ぐるみの協調性が必要
- 3) 若い人のモチベーションを保たせる
- 4) 長期的視点を持ち、すぐに利益を求めない
- 5) 地域の主要メンバーに参画してもらい、漁協が核となり率先垂範する
- 6) 北海道開発局・北海道・市町村・大学など、産学官連携のもとアドバイスをいただきながら進める



講師 加藤健司氏



講師 河村博氏



講師 斎藤義嗣氏

○意見交換

NPO 法人マリンネットワーク 遠藤理事のコーディネーターにより、地元の漁師さんを中心に積丹町の漁業についての意見をお聞きしました。主な意見は以下の通りです。

- ・父の後を継ぎ漁師になって2年目、磯まわり（ウニ、アワビ、ナマコなど）の漁業をしている。資源が少なくなっているが、どう取り組んでいいかわからないことが多い（青年部員(美国支所)）
- ・漁師になって2年目、磯まわり（ウニ、アワビ、ナマコなど）の漁業をしている。ウニ剥きの出面さんが不足して困っている（青年部員(美国支所)）
- ・漁師になって3～4年、天気によって左右されている。ウニの実入りが少ないので、円筒の籠を使った養殖に取り組むことになっている（青年部員(美国支所)）
- ・底建漁業と浅海漁業を主にやっている。磯焼けが問題（青年部員(余別支所)）
- ・ウニについては水揚げが7トン、7千万円減少した。餌をやりながら育てる部会を立ち上げ取り組み始めた。サケの海中飼育もおこなっている（東しゃこたん漁協）

上記の意見を受けて、行政や研究機関の方から

- ・自然エネルギーを利用した陸上飼育施設を整備することにより出荷期間を長くできないか検討するための調査を実施している（北海道開発局小樽開発建設部）



意見交換コーディネーター 遠藤理事

・新しいアイデアを出して取り組んでいく人が必要だ。沿岸を少し休ませて沖に漁業を展開しながら沿岸の資源回復を図ることが可能（北海道）

・地場の資源の見直し、有効活用（ウニにコンブを与えて実入りをよくする）には継続と根気が必要だが、ぜひ続けてほしい。若い人たちが今後の方向性を考えていく。イワガキ、バカガイ、アサリの技術開発を行っている（道総研）

今回の学習会を通して、積丹の漁業は現状抱える問題も多いのですが、一方で、若い漁業者が後継者として意欲的に漁業をしていたのが印象に残りました。日本海漁業の今後についてできる限り応援したいと考えている人（企業、研究者、行政など様々）がたくさんいるので、いろんな可能性を将来につなげるような地道な活動が必要なのかと思いました。講師の方、集まってくださった地元や関係機関の方、準備にご協力くださった積丹町の皆様、ありがとうございました。学習会のあと開催した交流会も、参加者も多く大変盛り上がりしました。



■情報収集及び調査研究

(1) 和田島漁業協同組合女性部との交流

2015年5月の総会に講師で来ていただいた和田島漁協の濱口参事とのご縁で、和田島漁協女性部(鳴滝貴美子部長)主催による和田島ちりめん市の視察を中心に、地域との交流を目的に2015年10月30日～11月3日に徳島県小松島市を訪問しました。ほかに、徳島小松島港の視察、小松島みなとオアシスの視察を行いました。



和田島ちりめん市における女性部のテント
(ちりめんの直販をしていました)



小松島港視察



←国土交通省四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所で小松島港の説明をしていただきました

みなとオアシス小松島「小松島みなと交流センターkocolo」(旧南海フェリーターミナルビル)を中心に、カフェやフリーマーケット、産直市などが常設されている。ボードウォークもイベント時には市民でにぎわっているとのことでした。



(2) マリンビジョン期成会報告書 契約金額：180,000円(税込)

■その他

第2号議案

平成27年度 NPO法人に係わる収支決算書

会計期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日

NPO法人マリネットワーク

単位：円

科 目	科 目	H27予算(A)	H27決算(B)	(B)-(A)	備考
1. 収入の部		1,525,200	1,158,816	-366,384	
1. 会費収入		940,000	834,000	-106,000	
	個人会員	390,000	294,000	-96,000	
	法人会員	550,000	540,000	-10,000	
2. 事業収入		545,000	312,000	-233,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	45,000	6,000	-39,000	南かやべオーナー制真コンプ, 歯舞, 落石小分け
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	0	フィッシュラン北海道
	漁村地域の担い手支援に係る事業	50,000	0	-50,000	ナレッジサークル参加費
	情報収集及び調査研究	300,000	180,000	-120,000	浜の活力再生プラン(苫小牧), マリンビジョン報告書作成費
	その他	150,000	126,000	-24,000	総会・交流会会費
3. 預貯金利子		200	86	-114	
4. 寄付金等収		10,000	0	-10,000	
5. 補助金等収		20,000	0	-20,000	
6. 雑収入		10,000	12,730	2,730	
2. 支出の部		873,000	1,256,148	383,148	
1. 事業費		700,000	1,169,960	469,960	給料手当、会議費、旅費交通費計上
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	45,000	37,260	-7,740	Sea級グルメ全国大会視察、南かやべオーナー制真コンプ小分け
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	170,420	170,420	マリンビジョン支援(利尻), ナレッジサークル札幌
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	5,000	316,610	311,610	ナレッジサークル 積丹ほか
	④情報収集及び調査研究	150,000	275,020	125,020	マリンビジョン報告書、徳島視察
	⑤その他	500,000	370,650	-129,350	総会会場費、交流会費、講師謝金など
2. 一般管理費		173,000	86,188	-86,812	
	給料手当	30,000	0	-30,000	
	消耗品	50,000	12,761	-37,239	
	通信費	30,000	16,235	-13,765	
	外注費	0	0	0	
	荷造運賃発送費	10,000	0	-10,000	
	会議費	20,000	0	-20,000	
	旅費交通費	20,000	51,900	31,900	
	租税公課	0	0	0	
	支払手数料	8,000	5,292	-2,708	
	その他	5,000	0	-5,000	諸会費
当期収支差額		652,200	-97,332	-749,532	

監 査 報 告 書

平成 28 年 5 月 10 日

NPO 法人マリンネットワーク

理事長 片石 温美 殿

NPO 法人マリンネットワーク

監事 吉水 守

宮下 晃一



私たち監事は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの平成 27 年度における会計の監査を行いました。

諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを証明します。

第3号議案

平成28年度 事業計画(案)

■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

- ・NPO法人マリンネットワーク 平成28年度総会・講演会・交流会

日時：平成28年5月21日（土）

総会14:00～14:45、講演会15:00～17:15、交流会17:30～19:00

場所：TKPガーデンシティ札幌駅前（札幌市中央区北2条西2-19 TKP札幌ビル）

総会・講演会：5階5B会議室、交流会：5階5A会議室

【プログラム】

○総会（14:00～14:45）TKPガーデンシティ札幌駅前

○講演会（15:00～17:00）TKPガーデンシティ札幌駅前

講演 15:00～16:00

- ・田村真弓氏（水産庁漁港漁場整備部防災漁村課 課長補佐）

「浜の活力再生プランによる漁村地域の活性化」

- ・松尾優子氏（国立高専機構 苫小牧高専 環境都市工学科准教授准教授）

「苫小牧漁業協同組合との取組」

トークセッション 16:00～17:00 「漁村地域の活性化を産学官民連携ですすめよう～浜の活力再生プランや北海道マリンビジョンの推進とともに～」

- ・スピーカー：田村真弓氏、松尾優子氏、片石温美

- ・コーディネーター：遠藤 仁彦氏（NPO法人マリンネットワーク理事）

NPO法人マリンネットワークの活動報告 17:00～17:15

- ・片石温美（NPO法人マリンネットワーク理事長）

○交流会（17:30～19:00）会場：TKPガーデンシティ札幌駅前

- ・マリンナレッジサークル(漁村勉強会)開催

札幌で1回開催（漁村から講師を招く）

■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

- ・食育活動、都市漁村交流、消費者と生産者の交流を、漁協や漁協女性部など地域と協働で実施

■漁村地域の担い手支援に係る事業

- ・マリンナレッジサークル(漁村勉強会)開催

漁村で1回開催（漁業者、研究者、民間企業、行政等の多様な人たちが集まり、地域の課題や様々な対策等についての意見交換）

■情報収集及び調査研究

- ・調査研究業務など
- ・事業の公募など

第4号議案

平成28年度 NPO法人活動に係わる収支予算計画書(案)

会計期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

NPO法人マリンネットワーク

単位：円

科 目	科 目	前年度実績	H28予算	備考
1. 収入の部		1,158,816	1,332,816	
1. 会費収入		834,000	940,000	
	個人会員	294,000	390,000	正92人、賛35人(H28.3.31現在)
	法人会員	540,000	550,000	正47口、賛6口(H28.3.31現在)
2. 事業収入		312,000	360,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	6,000	0	
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	0	30,000	ナレッジサークル参加費
	情報収集及び調査研究	180,000	180,000	
	その他	126,000	150,000	総会・交流会会費
3. 預貯金利子		86	86	
4. 寄付金等収		0	0	
5. 補助金等収		0	20,000	
6. 雑収入		12,730	12,730	
2. 支出の部		1,256,148	1,332,816	
1. 事業費		1,169,960	1,050,000	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	37,260	100,000	
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	170,420	200,000	
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	316,610	200,000	
	④情報収集及び調査研究	275,020	200,000	
	⑤その他	370,650	350,000	
2. 一般管理費		86,188	282,816	
	給料手当	0	0	
	消耗品	12,761	10,000	
	通信費	16,235	15,000	
	外注費	0	0	
	荷造運賃発送費	0	0	
	会議費	0	0	
	旅費交通費	51,900	200,000	
	租税公課	0	0	
	支払手数料	5,292	5,000	
	その他	0	52,816	
当期収支差額		-97,332	0	